

2015年12月15日 北海道新聞 朝刊

蘭越町営スキー場
譲渡交渉は白紙に

町、再公募の方針

【蘭越】後志管内蘭越町の宮谷内留雄町長は14日の定例町議会で、製造・技術分野の人材派遣業、UTグループ（旧UTホールディングス、東京）と進めていた休業中の町営チセヌプリ

スキー場の譲渡交渉を打ち切ったことを明らかにした。町は再公募する方針。

同町は昨年12月から今年4月にかけて、価格5千万円で譲渡先を公募した。町と同社は6月に基本合意し、2016年度の再開を目指して年内に最終契約する予定だった。しかし、公募時に盛り込まれていなかった

連帯保証人の設定などをめぐり交渉が難航。町によると、11月2日に同社が白紙撤回を申し出たという。

町は「継続協議は難しいと判断した。譲渡先を再公募したい」、UTグループは「募集要項と異なる条件になったため（白紙は）仕方なかった」と話す。

同スキー場はチセヌプリ（1134㍓）の道有林を町が賃借して1967年に開業した。周辺に広がる原生林を滑走でき、愛好家の人気を集めたが、リフトの老朽化などにより13年末に営業を休止した。